



肝付建第326号  
平成19年5月8日

国土交通省道路局長 殿

鹿児島県肝付町長  
倉岡 哲哉



### 中期的な計画の作成にあたっての意見提出について

#### ・重点化を進める上で特に優先度の高い政策

全国的な少子高齢化が進む中、高齢者に優しい道づくりを進めてほしい。  
電動カーが安心して走行できる新たな歩道整備事業の策定はできないか。  
地方は公共交通機関が少なく医療、買い物など移動についてはどうしても車に頼らざるを得ない。このため、狭隘の道路も数多くある。社会资本整備に人口、交通量だけの基準で事業採択を行わず地域の実情をふまえた道路行政をお願いしたい。

道路、橋梁ともに高度成長期に造られており、長い年月により再整備の時期に来ている。特に橋梁の補修は多額の金額を必要とする。脆弱な自治体には負担が大きく高額補助をお願いしたい。

#### ・効率化を徹底的に進める上で重視すべき事

他機関で計画の道路整備と一体化や、その道路との連絡網の強化  
国・県・市町村一体となった短期集中型の道路整備の導入  
(国道の整備に併せて連絡する県道、市町村道の整備も一体として行えるような事業の導入で整備の早期効果の発現を図る。)

どこの自治体でも、入札の透明性を高めるため、指名競争入札から、一般競争入札の導入を図っているところだが、小さな自治体での一般競争入札では限度があるようと思える。隣接した市町と連携を取りながら広域行政で入札を行うよう指導をしてほしい。

- ・その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関すること

この地域は食糧生産基地として、農林漁業が盛んな地域であるが、物流を考えると空港、高速道路までのアクセス整備が遅れているのが実情である。東九州自動車道、アクセス道路となっている大隅縦貫道の早期完成を強く要望します。

広域農道や、農免農道などの農道として整備された道路についても、利用者にとっては同じ道路である。道路網としての整備計画の際は関連を持たせた整備はできないか。突然、農道の交差点が増えていることが多い。

道路の規格・構造は一本化できないか。農道で整備された道路を大型車が頻繁に通行すると強度不足から沈下や損傷が激しく維持補修の頻度が増す状況にある。